



環境に配慮し、古紙パルプを含む再生紙とベジタブルオイルインクを使用しています。

干潟でつながる GEELONG DAYS'14 人・自然・未来



干潟でつながる 人・自然・未来

GEELONG DAYS

ジロング・デイズ'14



発行／名古屋市環境局

〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
TEL 052-972-2662 FAX 052-972-4134

発行年月／平成26年10月

ジロング・デイズ'14

平成25年度 オーストラリア・ジロング市との湿地提携に基づく人的交流事業
報告書



はじめに

平成26年3月、18人の名古屋の中学生たちは海を渡り、オーストラリア・ジロング市を訪ねました。ジロング市はオーストラリア南東にある港町で、渡り鳥のルートである藤前干潟がある名古屋市と湿地提携を結んでいます。

ジロング市を訪問する目的は、現地の環境保全の取り組みを学び、交流することを通じて、地球規模で環境全般を考え、名古屋の環境保全に対する理解を深め、自ら環境保全に取り組む人になってほしいためです。果たして、中学生たちは、この渡航で何を見聞きし、何を感じたのでしょうか。

この報告書は、ジロングでの様子をまとめた報告書です。各ページで取り上げる内容を決めたり、原稿を書いたり、中学生たちが積極的に誌面編集にも関わっています。



出発

シンガポール経由で豪州へ ドキドキ、ワクワクの空の旅

私たち18人は3グループに分かれ、事前の学習などを重ねてきました。ついに飛行機で中部国際空港を出発、シンガポールで便を乗り換えて、メルボルンを経由してジロングへ。海外に行くのはもちろん、飛行機に乗るのが初めての子も。うまく乗れるかどうかとてもドキドキしました。それと同時に、いったいどんな旅になるのだろう…とワクワクもしました。



飛行機の窓からの景色はとてもきれいでした。

3月23日 10:30 セントレア 発

3月23日 16:45 シンガポール 着

3月23日 21:15 シンガポール 発

3月24日 07:50 メルボルン 着

〈現地時間〉

チャンギ国際空港

シンガポールのチャンギ国際空港は、とても広くて専用の電車があるくらい。みんなが知っている日系のコンビニエンスストアもありました。とても施設が充実していて、世界一の空港に選ばれたこともあるそうです。



セントレアでの出発式。みんな少し緊張気味!?

機内食です。
おいしそうでしょ。



チャンギ国際空港のスカイトレインです。





メルボルン到着

スタートはメルボルンを見学 クック船長の生家や温室へ

最初の目的地、オーストラリアのメルボルンでは、フィッツロイ・ガーデンという大きな公園を見学しました。公園には、18世紀に活躍した海洋探検家のクック船長の生まれた家や、きれいな花がいっぱい咲いている温室植物園がありました。



クック船長の家は、イギリスから運ばれたレンガで造られていました。



温室植物園には、バラなどの花がきれいに咲いていました。



久しぶりにやる
鬼ごっこは、
なんだか楽しかった!

夜の公園で鬼ごっこ

日も落ちてすっかり暗くなった夜の公園では、みんなで鬼ごっこをしました。追いかけたら、追いかけられたりするうちに、すっかりみんなと打ち解けることもできました。それと、暗闇の中でうっすらと赤い目が光る、猫のような謎の動物も2、3匹発見しました。



謎の動物を発見!
しっぽがふさふさして、
かわいい♡



セリンディップ保護区



さまざまな鳥たちを近くで観察することができました。



オーストラリアに生息するブルルガ。別名をオーストラリアツルと言います。



名前はわかりませんが、木のような形をした鳥がいました。

野生動物を保護するエリアで エミューやカンガルーとご対面

ジロングの北にあるセリンディップ保護区は、250ヘクタールという広大な面積を持つ野生動物の保護区域です。鳥類を中心に、自然界での絶滅が心配されている種を増やす取り組みを行っています。私たちが訪れた時は、いきなり大きなエミューがいてびっくりしました! 動物たちを野生のまま保護し、人間に慣れさせないようにする工夫をしているそうです。



エミューたちが私たちを出迎えてくれました。



カンガルーと
ジャンプ競争!
どっちが遠くまで
跳べるかな?

1日目を終えて

初めての仲間と、長旅を経て初めての外国へ。緊張もあってか、体調を崩す子がいるなど、多少のトラブルはありましたが、全員無事にジロングに到着することができて安心しました。

長い1日の後にもかかわらず、夜、元気に公園を走り回る姿を見て、大人の方が元気をもらった気がします。

明日のジロング市表敬訪問では、上手にスピーチできるといいですね。



表敬訪問

歓迎式とモーニングティーに参加 スピーチも会話も、英語で挑戦!

ナショナルウールミュージアムで、ジロング市の職員の方々が私たちが温かく出迎えてくれました。歓迎式では、各グループのリーダーが、今回の渡航への期待や抱負について、英語でスピーチをしました。

その後、オーストラリアの習慣であるモーニングティーにも参加して、ジロング市の職員の方々と緊張しながらも話しをして、交流することができました。とてもフレンドリーに接してくれました。



歓迎式の様子。ジロングと名古屋の両市の代表が記念品を交換しました。



モーニングティーでは、ジロング市の職員の方々といろんなことを話しました。勇気を持って英語で頑張りました。



組長
(三上大智さん)



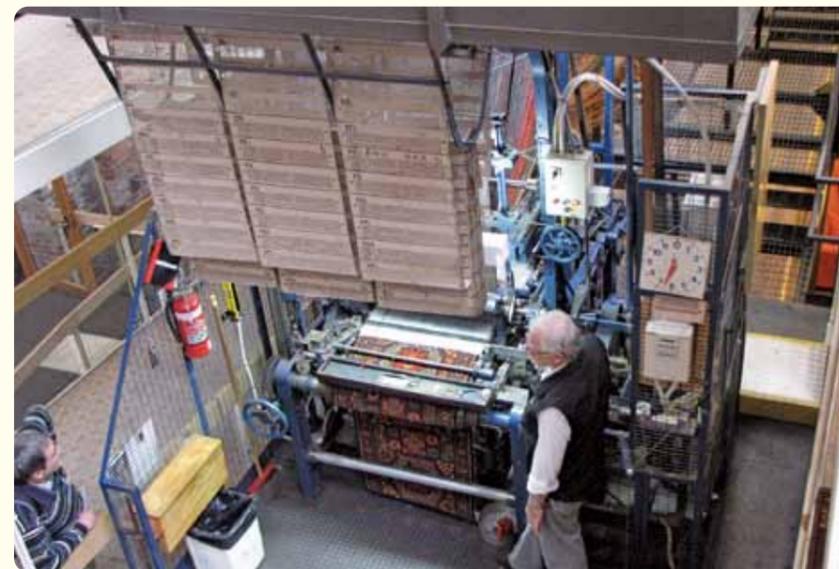
よし
(木村喜洋さん)



えりや
(山本領耶さん)



ウールミュージアム



いまでもちゃんと糸を紡ぐ、年代物の機械。

羊毛が
たっぷり
入った袋。



この機で競りが行われるそうです。

年代物の毛織り機に感動 オーストラリア土産もゲット

歓迎式の後、ミュージアム内を見学しました。羊毛の入った立方体の袋や羊毛の“競り”をする機など、目を引くものがたくさんある中、毛を布にする大きな機械が印象に残りました。建物の2階から3階にかけての吹き抜けを埋めるほど大きなその機械は、年代物という雰囲気を感じつつも、大きな音を立てながら、しっかりと糸を紡いでいました。

見学が終わり一段落ついたところで、ミュージアムショップでオーストラリア最初のショッピングを楽しみました。ショップには、プーメルンやぬいぐるみ、絵はがきなど、ウールミュージアムならではのグッズも売られていました。



ウールミュージアムの建物はとてもきれいでした。歴史の重みも感じます。



ジラリング・コアラ野生動物保護区

みんなが触ったり
写真を撮ったり
しているのは……
サルでした。



いろいろな動物を触りました。ハリネズミのハリは結構硬かったです。



カンガルーの
餌やりも
体験しました。



純血種が
少なくなっ
てきているという
ディンゴ。

コアラやウォンバットと触れ合う 自然を守ることの大切さも学ぶ

ジラリング・コアラ野生動物保護区では、コアラを代表とするオーストラリアの特徴的な野生動物の公開や、傷ついた野生動物の保護などを行っています。

この施設ではほかにも、絶滅の危機に瀕している動物を捕獲し繁殖させる活動や、飼い主が飼えなくなったペットを引き取って保護する活動もしています。

これらの取り組みは、公開施設の入場料やペットホテルの代金、寄付金などで運営されています。

2日目を終えて

表敬訪問でのスピーチやモーニングティーでの交流など、緊張しながらも頑張って英語でコミュニケーションする姿が印象的でした。ジラリングでは、飼育員のはからいで、コアラやワラビーなど多くの動物に触れ合うことができました。

子どもたちも、オーストラリアにいることを実感したのではないかと思います。子どもたち同士もなじんできて、よい一体感を感じられるようになってきました。

明日はいよいよ、子どもたちが最も楽しみにしているクイーンズクリフの子どもたちとの交流です。よい天気になるといいですね。



海洋発見センター

珍しい海の
生きものが
たくさんいました!



オーストラリアンクラブへの餌やりを体験しました。手を挟まれないかと、ちょっと怖かったです。



現地の小学生たちとご対面。「ペアになるのはどの子だろう」とみんなドキドキ♡



周りの自然にとけ込んでいるような海洋発見センターの外観。まるで秘密基地みたい!

現地の小学生が熱心にガイド 海の生きものたちを間近に観察

海洋発見センターは、スワンベイにすむ生きものなどを展示した施設です。私たちは、中学生3人とクイーンズクリフ小学校の小学生2人でグループをつくり、一緒に施設の中を見て回りました。クイーンズクリフの子は、とても熱心に案内してくれました。

センター内には、海の生きものを素手で触ることができる水槽があります。ここでは、オーストラリアンクラブに餌をあげることができました。ヒョウモンダコという、怒ると変色する猛毒タコも展示されていました。



クイーンズクリフ小学校

日本の学校とは、全然違う雰囲気です。



クイーンズクリフ小学校の正門。



チーム木村のプレゼンの様子。



チーム組長のプレゼンの様子。



チームえりやのプレゼンの様子。



小学生たちは、よく日本のことを勉強して、作品を作っていました。



小学生たちは熱心に聞いてくれました。



みんなでオーストラリアンラグビーをして楽しみました。

クイーンズクリフ小学校のすぐそばにある、スワンベイ干潟へレッツゴー!



プレゼンやラグビーで楽しく交流 豪州と日本の“文化のかけ橋”に

クイーンズクリフ小学校は、全校児童12人の規模の小さな学校です。かつては規模が大きかったらしく、学校や校舎はとても広かったです。小学校は楽しそうな雰囲気が漂っていて、のんびりとしていました。

最初に、グループごとにプレゼンテーションをしました。各グループでテーマを決めて、名古屋や藤前干潟について紹介しました。小学生たちは、みんな興味津々で、話を聞いてくれました。私たちは、オーストラリアと日本をつなぐ「文化のかけ橋」になれたのではないかと思います。

昼食後、小学生たちとオーストラリアンラグビーをしました。小学生は2、3年生の小さな子たちばかりだったのに、植えてあった高い木を越えてしまうほど、高くボールを蹴っていました。逆に私たちは、だ円形のボールに慣れていないのか、ボールを蹴っても変な方向に飛んでいってしまい、うまくできませんでした。



スワンベイ干潟

名古屋と渡り鳥でつながる干潟で 魚やカニなど海の生きもの探し

ジロング市内には100以上の湿地があり、その多くがラムサール条約(特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約)に登録されています。そのひとつ、スワンベイ干潟には、名古屋の藤前干潟やほかの湿地を経由してシベリアから渡ってくる鳥もいます。それらの渡り鳥や小動物にとっても、大きな役割を果たしている場所であることがわかりました。

このスワンベイ干潟に、クイーンズクリフ小学校の児童と一緒に入りました。水中をよく観察していると、小さな魚やカニが動いているのが見えました。生きものの名前や特徴、捕まえ方を小学生に教えてもらいながら楽しみました。私たちは、なかなか見つけれませんでした。小学生たちはすぐに捕まえて、持っていたバケツにポンポン入れていました。



双眼鏡を使って、いろいろな鳥を見ることができました。(ブラックスワン)



干潟はとても軟らかかったので、足が沈んでしまい大変でした。



小学生たちが英語をあまり話せない私たちに一生懸命伝えようとしてくれたことが、うれしかったです。

スワンベイ干潟で
現地の小学生たちと
記念撮影をしました。



小学生たちがスワンベイ干潟やそこにいる生きものについてよく知っていることから、環境に対する意識の高さを感じました。

小学生たちとお別れの時間。
仲良くなったので、
別れるのが辛かったです。

ごみが落ちていないことに驚き 現地の小学生との別れを惜しむ

スワンベイ干潟は、どこを見てもごみがひとつもありませんでした。藤前干潟では、年に数回行われるごみ拾いで集まるごみの量はトン単位になります。現地の方々の話だと、少しでもごみが落ちていたら誰によるものとかに関係なく、拾う人が多いそうです。このようなことを実行できる人がたくさんいることに驚かされました。

干潟からあがった後には、捕まえた生きものを観察しながら、小学生たちといろいろと話をして、交流を深めることができました。

足を洗って小学校に戻ると、小学生たちが手作りのカードや鉛筆、メモ帳、パンフレットなどをプレゼントしてくれました。お別れの時は本当に悲しくて、一緒に写真を撮ったり、抱き合ったりしている子もいるほどでした。



3日目を終えて

絶好の天気のもと、渡航のハイライトである現地の小学生との交流を行うことができました。名古屋でいろいろと勉強してきた子どもたちですが、現地での体験は何事にも代え難い貴重な機会になったことと思います。

最初はぎこちなかった両市の子どもたちも、同じ時間を共有することで次第に心が通じ合い、別れ際の名残惜しそうな姿が印象的でした。

オーストラリアで過ごすのも残り1日となりました。あっという間でしたが、とても充実した毎日でした。



帰国

ジロングってこんな町



動物たちのはく製がいっぱい並んでいました。

自動車製造が盛んな港湾都市 緑あふれる豊かな自然も魅力

ジロング市はオーストラリアの南東、メルボルンから車で1時間ほどのところに位置しています。人口は28万人ほど。フォードをはじめとした自動車の製造が盛んな港湾都市です。

町中には緑がたくさんあり、豊かな自然環境にも恵まれています。



博物館の斬新な展示方法に感心 旅の思い出胸に帰国の途へ

最終日は、メルボルン博物館を見学しました。日本の博物館とは違い、展示内容などがとても斬新で、巨大なクジラの骨やゼロ戦などが私たちを迎えてくれました。

このほか、これまた巨大な恐竜の骨や絶滅種のはく製などを見ることができました。名古屋では見られないものを見ることができて、貴重な体験となりました。

その後、メルボルン市内で最後の買い物をしました。たくさんの種類のグッズが置いてあってとても面白かったです。ただ、お土産を買った後にオーストラリア製ではないことに気づいて、落ち込んでいる人もいましたが…。それぞれが、お土産もたくさん手にして、名古屋へと帰りました。



オーストラリアの思い出に、お土産をたくさん買いました。



メルボルンで最後の記念撮影。みんなの表情が、出発式の時とは全然違うと思いませんか？



市役所は街のシンボル。



大きな栈橋があって、港町の雰囲気たっぷり。



車は日本と同じ、左側通行です。



ウォーターフロントの風景。



ジロング思い出すごろく

楽しい思い出がいっぱい 旅気分をすごろくで追体験

オーストラリアで過ごした4日間の思い出をもとに、すごろくを作りました。私たちが味わった楽しい旅の気分を、少しは感じることができるかもしれません。ぜひチャレンジしてみてください。

熱を出す。
ホテルに戻る
4へ戻る



START
飛行機に乗る

オーストラリアに到着。
1マス進む

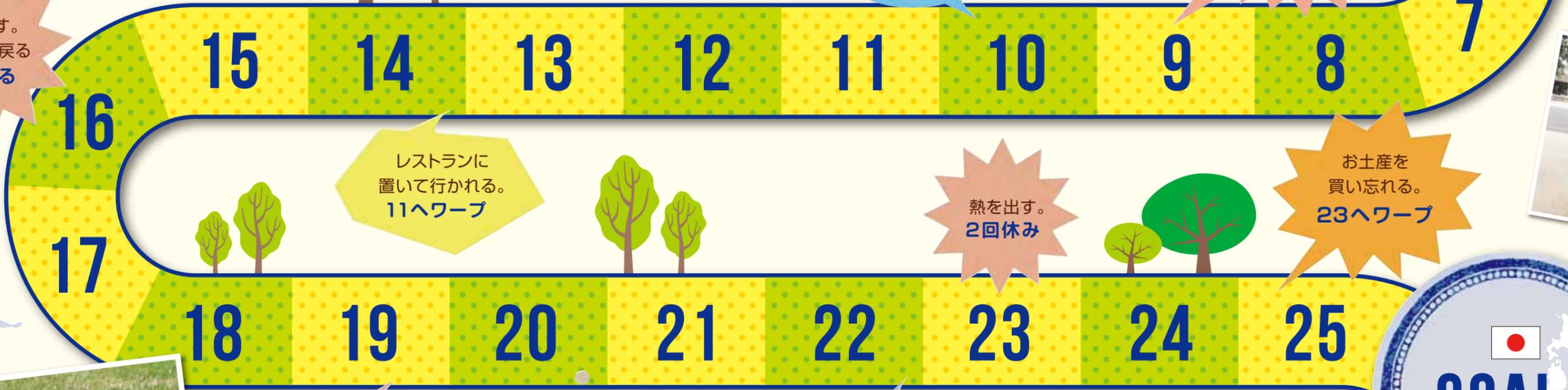


ホテルにチェックイン!



コアラに触る。
1回休み

カンガルーより遠くにジャンプ!!
13へワープ



レストランに置いて行かれる。
11へワープ

熱を出す。
2回休み

お土産を買い忘れる。
23へワープ



オーストラリアの小学生と交流。
2マス進む



干潟にはまる。
2マス戻る

メルボルンで買い物。いいものを発見する。
2マス進む



GOAL!!
日本着!



メニューリスト

おいしくいただきました! オーストラリアごはん

おいしい食事も旅の楽しみのひとつ。私たちがオーストラリアで食べたごはんの一部を紹介いたします。初めて口にするものもあったけど、どれもおいしかったです。ごちそうさまでした!

3月25日 昼食

RESTRANT: バーウォン オレンジ

MENU: ●ビーフハンバーガー
(ルッコラ、アイオリ、
チーズ、ビートルートのチャツネ)
●ポテトフライ
●飲み物



オーストラリア料理

3月24日 昼食

RESTRANT: ツインドス

MENU: ●ディップ盛り合わせ
●ピタパン
●サガナキ(揚げチーズ)
●ギリシャサラダ
●お肉のグリル
●飲み物



ギリシャ料理

3月24日 夕食

RESTRANT: ホテル内レストラン

MENU: ●マッシュポテトと
季節の野菜を添えた牛肉のステーキ(250g)
●チョコレートプリンと
バニラアイスクリーム



3月25日 夕食

RESTRANT: ラ・ボルケッタ

MENU: ●イカのサラダ
●パンネ アマトリチャーナ
●ジェラート



イタリア料理

3月26日 夕食

RESTRANT: エンバイア グリル

MENU: ●ロールパン
●魚のフリッター
●ガーデン サラダ
●アイオリ
●飲み物



オーストラリア料理

3月27日 昼食

RESTRANT: ドラゴン ポート パレス

MENU: ●中国茶
●春巻
●海鮮と豆腐のスープ
●黒コショウと蜂蜜ソースのステーキ
●中華風豚バラ肉の煮込み
●鶏の焼きそば
●特製チャーハン
●お茶とオレンジ



中華料理



藤前干潟



藤前干潟は日本でも有数の渡り鳥の渡来地です。



藤前干潟で、さまざまなことを学びました。

私たちの身近な場所にある 生きものたちの宝庫

私たちは物心ついたときから、ごみを分別することは当たり前でした。でもそれは、私たちが生まれるより前、藤前干潟がごみの埋め立て地になったかもしれない危機を名古屋市民が一丸となって、ごみの分別・再資源化に取り組んで大幅にごみを減らしたことによる、ということを知り直し、考えました。

今回の派遣をきっかけとして、藤前干潟の重要性や名古屋の環境保全について、気づいたこと、学んだことを伝えたり、自分たちに何ができるか考えていきたいと思えます。

スワンベイ干潟を見て あらためて考えた藤前干潟

私たちは、藤前干潟について、生きものがたくさん生きていること、渡り鳥の中継地や繁殖地になっていることを学びました。これからも、藤前干潟や名古屋の環境について考え、行動していきたいと思えます。



アナジャコ



ソトオリガイなど



オキシジミやハゼなど



派遣を終えて

見て、聞いて、学んだこと ジロングでの経験を未来に生かす

名古屋市を代表して、ジロングへ派遣された18人の中学生たちは何を学び、何を感じ取ったのでしょうか。それぞれにこの4日間を振り返ってもらいました。

帰国後、「環境デーなごや」や「ESDシンポジウム」で学びの成果を発表しました。



● SCHOOL
神沢中学校
● NAME
今田莉彩
(いまた・りさ)



干潟にはごみがほとんどなくてびっくり。動物の保護区域があるなど、人々の意識が高いことも分かりました。

● SCHOOL
名古屋大学教育学部附属中学校
● NAME
岩田一近
(いわた・かずちか)



レストランで置いてきぼりにされ、とても心細かったです。もっと英語を勉強しようと思うようになりました。

● SCHOOL
滝ノ水中学校
● NAME
太田知克
(おおた・ともき)



同じ食材でも日本と調理法が違うことや、青信号の時間が短いことに気付きました。「世界は広い」と感じました。

● SCHOOL
振甫中学校
● NAME
小川コナ
(おがわ・こな)



スワンベイ干潟は、どこを見てもごみがありませんでした。藤前干潟も同じ環境にできるよう、努力したいです。

● SCHOOL
日比津中学校
● NAME
小幡成輝
(おばた・なるき)



「楽しい」より、「驚いた」という気持ちの方が勝っていました。自然への関心を高めていきたいと思います。

● SCHOOL
神の倉中学校
● NAME
風岡弥希
(かざおか・みづき)



スワンベイ干潟は藤前干潟よりも、ごみが少なく、きれいでした。地元の人々の意識の高さに驚かされました。

● SCHOOL
北陵中学校
● NAME
木村喜洋
(きむら・よしひろ)



時差や食文化などを体感し、学ぶことができてよかったです。また、体調管理には気をつけたいと思いました。

● SCHOOL
山田東中学校
● NAME
栗木愛実
(くりき・まなみ)



小学生たちと会って、私は環境のために何もしていないことを知りました。できることから始めたいと思います。

● SCHOOL
愛知淑徳中学校
● NAME
近藤真由菜
(こんどう・まゆな)



ひと言で言うと「初めてのこと」ばかりの旅でした。それから、もっと英語を勉強したいと強く思いました。

● SCHOOL
南山中学校女子部
● NAME
佐野馨子
(さの・きょうこ)



現地の人々の自然と共存する意識の高さと、保護活動に参加する生活スタイルを見習いたいと強く感じました。

● SCHOOL

牧の池中学校

● NAME

田中美希

(たなか・みき)



海洋発見センターのタッチプールで海の生きものに触ることができてよかった。とてもよい経験になりました。

● SCHOOL

森孝中学校

● NAME

中川朝子

(なかがわ・あさこ)



さまざまな経験をすることができました。特に環境保全の意識の高さには驚きました。また行きたいと思います。

● SCHOOL

志段味中学校

● NAME

山本領耶

(やまもと・えりや)



環境についてあまり知らなかった私が、生物や環境を守ることの大切さや重要性を深く学ぶことができました。

● SCHOOL

愛知中学校

● NAME

吉田莉子

(よした・りこ)



日本とオーストラリアの環境への取り組みの違いなど、家族旅行ではできないことを体験できてよかったです。

● SCHOOL

宮中学校

● NAME

中村大地

(なかむら・だいち)



ジロングにはボイ捨てされたごみがひとつもなくて驚きました。名古屋もいずれそうになるといいなと思いました。

● SCHOOL

北中学校

● NAME

松井元祐

(まつい・げんすけ)



初めての英語圏で苦労しましたが、日本とは違う文化を体験できてよかったです。将来に役立てたいと思います。

● WORK

NPO法人
藤前干潟を守る会

● NAME

ダグラス・S
・ジャレル



中学生は、ジロング近くの動物保護区の仕組みや現地の小学生の行動を見て、環境の大切さに気がきました。

● WORK

NPO法人
藤前干潟を守る会

● NAME

間部裕子

(まなべ・ゆうこ)



自然に囲まれた小学校で、ワクワクするような授業を受ける子どもたちが、とてもうらやましいと思いました。

● SCHOOL

汐路中学校

● NAME

三上大智

(みかみ・だいち)



オーストラリアの広さと自然の雄大さに感動しました。機会があったらもう一度行って、楽しみたいと思います。

● SCHOOL

丸の内中学校

● NAME

山中塔矢

(やまなか・とうや)



現地での友達づくりが目標でした。別れ際、小学生が「写真撮ろう」と言ってくれたことが一番うれしかったです。

● WORK

名古屋市職員

● NAME

川原田真弓

(かわらだ・まゆみ)



みんなの伸びやかな表情が印象的でした。私自身もこの時の気持ちを未来につなげていきたいです。

● WORK

名古屋市職員

● NAME

磯部裕司

(いそべ・ゆうじ)



時間を経るにつれ、イキイキとしてくる子どもたちに、大きな可能性を感じました。今後の成長に期待します。

同行した大人たちの感想も紹介します。